

第8回「大人のためのブックトーク」を開催しました!

2月18日 I AMAS 小林図書館長と当館司書による本年度8回目のブックトークを開催しました。本年度最後のブックトークでしたが、初めて参加して下さった方もたくさんいらっしゃいました。

参加：40人

『ふわとろ』 B.M.F Tことばラボ編
B.M.F T出版部 2016年



ふわとろ、あつつあつつ、さくさく…、食べ物を表現することばはたくさんあるが、とりわけ日本ではこうした「おいしい表現」=シズルワードが世界でもっとも多いと言われている。本書は、そんなシズルワードを、作る側、食べる側、表現する側といった立場から楽しく詳細に調査している。1982年の西武百貨店の広告「おいしい生活」あたりから、食を超えて人びとの生活全般にこうしたシズルワードが拡散していることがよくわかる。味覚や嗅覚が記憶へとへとつながることを柔らかく説明してくれる一冊。

『死に至る病』 キルケゴール
岩波文庫(1939)、ちくま学芸文庫(1996)など



実存主義を闢き、ニーチェの思想を準備したキルケゴールは最近あまり読まれることはないが、主体と他者との関係や世界における自己の位置といったすぐれて哲学的な思想を励起させるためには避けて通ることはできない。本書はキリスト教の立場から神と人間との最終的な関係について述べられたものであるが、わが国のように多神教的かつ無神教的な雰囲気をもつ場面においても首肯させられることが多い。「死に至る病」とは絶望のこと、それを欲望とか怒りと読み替えることで21世紀の貴重な書物となる一冊。

『笑いと治癒力』 ノーマン・カズンズ
岩波現代文庫 2010年



原書刊行以来、邦題と出版社を替えて何度か発行されているが、「笑い」という情動反応が病いに対する抵抗力や自己治癒力を惹起するという、経験上も感覚上も自明のことを、長い間医療ジャーナリズムの世界に身を置いた著者が記述しているために、そのリアリティは確かなものがある。聞こえのよい「希望」ではなく「生への本能」という強い意志こそが自己治癒力を高めるものであって、とにかく行動に移してみるという逞しさを感じると同時にオルタナティブメディスン(代替医療)への可能性を綴った先駆的な一冊。

【岐阜県図書館：村田司書によるおすすめ本の紹介】

『ノア・ノアータヒチ紀行』 ポール・ゴーガン
岩波書店 1980年

『デルス・ウザラ』 V. K. アルセニエフ
小学館 2001年

『ピダハンー「言語本能」を超える文化と世界観』
ダニエル・L.エヴェレット みすず書房 2012年

○感想等

- ・初めて参加しました。館長さん、何者！？衝撃的でした。早口でしたが、その分情報量がすごい！なかなか読書の時間も取れませんが、偏りもありますし、また次回もお話聴きたいです。無料で拝聴できるなんて、ほんとありがたいです。充実した時間をありがとうございました。
- ・読書は、本当に個人的なものだと改めて思った。
- ・小林先生、大変知的好奇心に刺激を受けました。(毎回ですが) 司書さんの話も面白かったです。ぜひ読んでみたくくなりました。
- ・初めて参加しましたが、大変興味深いお話が聞けて、楽しかったです。本の内容を紹介するだけでなく、それにちなんだ話を聞いていると、ついつい引き込まれていきました。また機会を設け、参加したいと思いました。
- ・大変面白かったです。初めて参加させていただきましたが、小林館長さんのお話に、すぐ引き込まれてしまいました。大学の図書館長とは思えないような語り口で、いつもまでも聞いていたい気になってしまいます。また次回も参加したいと思いました。
- ・初めて参加させていただきましたが、15分で1冊の紹介。衣装チェンジあり、画期的でした。I AMASが大垣にあることも知りませんでした。
- ・小林館長のトークは、実に豊富な言葉があふれていて、楽しかった。素晴らしい表現力にも感心しました。
- ・少し難しい内容でしたが、1冊は読んでみたいです。
- ・とてもウイットがあって、とても楽しいトークでした。来年も出席したいと思います。
- ・3冊の本の様々な発展がみられて興味深かったです。
- ・今回、初めての参加でした。好きなジャンルの本ですが、新しい発見をさせていただきました。次回も期待しています。
- ・小林先生の軽快なトーク、本当に面白かったです。15分の区切りも、メリハリがあって聞きやすく、配慮がうれしかったです。
- ・とっても関心のある本で話していただいたと思いますが、特に読まれて目を開かされたという点について、焦点的に話していただく視点も期待しています。
- ・自分の興味外の様々な本を知ることができた。

来年度も開催します！

ぜひ、ご参加ください。